

「努力とやる気が」

ぶちか

議会だより

第102号 2017.12.23



枯れた松の伐採始まる・・・2～

議会と語ろう会・・・・・・・・4～

一般質問・・・・・・・・7～

編集 小値賀町議会 広報常任委員会

発行責任者 小値賀町議会議長

電話 0959-56-3111

(撮影: 今田光弘)

枯れた松の伐採始まる 工期は3月16日まで



(島のあちこちで作業が始まっています)



(愛宕山から見る本城岳の松枯れの様子)

「松枯れ対策に総力をあげて取り組む」との町長の決意を受け、議会は枯れた松を全部処理するための予算を10月会議で可決しました。

これに関連する予算は、およそ八千四百万円。島の東半分ほどを5つの工区に分け、それぞれの業者さんが現在、一斉にとりかかっています。

工期は一部を除き、来年3月16日まで。

年末年始が間に入り、あまり時間的な余裕はありませんが、安全第一で頑張っしてほしいと思います。



(風の強い日は特に注意が必要です)



(燃やして幼虫ごと駆除します)

ところで 松くい虫って？



松は、マツノザイセンチュウという、体長が1mmにも満たない細長い線虫が木の中に入ると、枯れてしまうことがあります。

この線虫は1905年、造船用に長崎県に輸入された木材に入っていて、その後全国に広がったと言われ、この線虫のことを一般的に松くい虫と呼んでいます。

どうして松が枯れるのか、はっきりしたことはわかりませんが、この線虫を運ぶマツノマダラカミキリ(写真)が夏の間に葉や枝の中にたくさん産卵し、秋にふ化して幼虫になるころ、松は枯れ始めます。小値賀の松枯れも、これが原因と思われます。

幼虫は春まで枯れた松の中にいるため、切り倒して木ごと焼いて駆除し、来年夏以降の被害を少なくしようというのが今回の作業の目的です。

毎年6月頃に、マツノマダラカミキリを駆除するための農薬の空中散布や地上散布をしています。それでも松が枯れてしまうのは、何か別の原因があるのかもしれません。



(ヘリコプターによる農薬の空中散布)



(地上での農薬散布の様子)

(平成29年度 保全松林緊急保護整備事業)

工区	場所	処理予定量	請負業者	請負金額
第2工区	柳・中村地区ほか	250m ³	(一財)小値賀町担い手公社	10,186,560円
第3工区	唐見崎地区	200m ³	(株)庭建	10,530,000円
第4工区	本城岳周辺	300m ³	(株)山本造園土木	15,787,440円
第5工区	愛宕山周辺	200m ³	(株)西肥緑化土木	10,562,400円
第6工区	相津・木場地区	200m ³	(株)友建設	8,424,000円

議会と語る会

りっぱカンパニース



(白浜海水浴場 どうしてこんなに?)

2011年に横山桃子さんが同級生とスタートさせた任意団体で、現在約20人が活動中。小値賀のために何かしたい。大きいことは継続が難しいが、小さなことなら継続できるのではと考え、毎月、海岸の漂着ごみの回収をボランティアで行っています。(おちか新聞でご存知の方も多いと思います。)小学校でごみ問題の授業も行っています。

西目のごみ処理施設はいぶ古くなっています、新しく造るにはたくさんのお金と時間がかかります。となると、ごみを減らして島の外に運んで処理するか、全部資源化してごみをゼロにするか。いずれにしても、まずはごみの分別をしつかりすることが大事だと思います。皆さんの考えをお聞かせください。



(五両だきに漁網は似合わない)

◎漂着ごみだけでなく、不法投棄やタバコのポイ捨てもとても気になる。
◎家電製品や家具等のリサイクルシステムがあれば捨てないで済み、ごみも減るのでは。
◎それぞれ個人で、職場で、まずはできることをする。なるべくプラスチックは使わないようにするなど、自分の暮らしを考えることが重要。それをもっと意識させるための教育も必要。
◎分別したものが、どこに運ばれ、どのようにリサイクルされるのか、はつきりわかる情報がある



(小値賀の将来を見すえて)

れば、もっと意識が高まるのでは。
◎ごみ問題は片手間に解決できるものではない。役場が専任の担当者を置かなければ前に進まないのではない。
これからの小値賀を考えるうえで、何か求めることはありませんか。
◎次の若い世代に主導権を渡せるシステムがほしい。年配者は若い人に任せるべきだ。
◎住む場所がないので人材も集まらない。まずは住む場所を作ることから始めてはどうか。

議会だよりに何かアドバイスをお願いします。
◎若い人に期待している、若い人に引き継ぎたい、若い人にまかせるといふような「志」を感じられるような紙面に。
◎議会が町政やふだんの生活に直接影響力があるということがよくわかれば、議員のなり手も出てくるのでは。
◎議会の本来の役割が何なのか。何をするといいのか。役場とのかかわりもよくわからない。
貴重な意見をいただきました。議会だよりにも厳しい指摘をいただきました。
これからの小値賀のことを皆さんとても真剣に考えてくれています。
より良い小値賀を目指し、議会が率先して皆さんを引っ張っていけるよう、議論を重ねていきたいと思っています。

おちかアイランドツーリズム協会

野崎島で子どもキャンプなどを行っていた「ながさき島の自然学校」をNPO法人にしたのが、おちかアイランドツーリズム協会(通称IT協会)です。小値賀が目指す観光の形は「島の魅力を生かした体験型のツーリズム」。観光協会の仕事を町から委託されるなど、観光ワンストップ窓口として小値賀町の魅力を発掘し、町内外に発信する仕事をしています。また、民泊や修学旅行の受け入れ、野崎島の自然学塾村の管理運営、古民家ステイや古民家レストランの運営なども行っています。

議会改革の3本柱の一つが「町民とともに歩む議会」。その一環として町内のいろいろな団体と議員がいろいろなテーマで語り合います。

IT協会は今マンパワー不足。その問題を出発点にして語り合いました。

職員を募集するが仕事量に比べて職員数は少なく、職員を募集して島民やUターン者に来ていただきたいと思っているものの、なかなか難しいのが現状です。
民間の法人としてのIT協会の位置づけや、町との関係、これまで果たしてきた役割などを島民が理解していないために、応募につながらないのではないかとこの意見が議員から出されました。
民泊や修学旅行での交流や感動的なエピソードを本にして、皆に知ってもらおう取り組みなども必要ではないか、との話も出ました。



(野崎島上陸後のガイダンスの様子)

観光は「感幸」
野崎島での現場の対応についても話題となりました。
「目くぼり、気くぼり、思いやり」。
一人ひとりを大切にする心構えが大切で、野崎を愛する心、小値賀を大切にすることを大事にしながら対応していると。
人を介して地域の良さを知る側面も大きいとして、民泊の大切さ、ふれあいの大切さも強調。
観光は『感幸』。そこに訪れて幸せを感じて帰ることができれば、きつとまた野崎に、小値賀に来てくれると野崎の担当者



(修学旅行生を見送ると寂しくなります)

IT協会の役割
小値賀の観光や魅力の発掘と情報発信に、ゼロからここまでけん引してきたIT協会の役割は決して小さくありません。
島民を巻き込んだ小値賀の観光を盛り上げていきたいという声も上がりました。

小値賀町の目指す観光について、議会でも議論しています。
自然や歴史、当たり前環境や暮らし、ふだんの人づき合いそのもの。それらが訪れる人たちの魅力となっていることをしっかり理解して、これからの小値賀町の観光のあり方を考えていかなければならないと改めて確認することができました。

一般質問

小学校6年生のほか傍聴される方が大勢いる中、4人が町政について町長や教育長の考えを問いました。
日ごろ抱いている疑問や小値賀町をより良い町にするための提案など、各議員の想いが伝わります。



(傍聴するの少し緊張します)



今田光弘議員

「食卓料」は廃止「宿泊料」は見直しを
「宿泊料」は見直します

問 今田光弘議員
小値賀町職員が公務出張でフェリー太古に乗って小値賀に帰る場合、「食卓料」が千五百円支給される。

食卓料というのは夕食代と考えられるが、県内の8つの町で食卓料があるのは、当町のほかは時津町と波佐見町だけ。同じ離島の新上五島町にはない。本町の厳しい財政状況を考えると、「食卓料」は廃止すべきではないか。

答 西浩三町長
「食卓料」は法律にも規定のある制度です。深夜、船で移動の場合などに支給されるのですが、時間外の夜間移動などを考慮すると支給はやむを得ないと思います。廃止は考えていません。

問 今田議員
同じく公務出張の場合、県外での宿泊は8千4百円、県内では7千円が「宿泊費」として支給されている。県内はまだしも、県外、特に大都市圏になると、この金額で宿泊するのは困難だ。公務なのに自腹を切るのでは、職員の士気にも大きく影響する。



(たまには和室に一人も)

平成29年定例11月会議

平成29年11月29日～12月12日

補正予算を中心に 一般質問には4人が登場

今回の会議は、小値賀町職員の給与に関する条例の改定と、それに伴う各会計の補正予算が主なものでした。質疑を重ねた結果、すべて賛成し可決しました。

一般会計補正予算

6260万円追加して
総額30億4790万円に

～補正の主な内容～

- ◎平成28年度の決算を受け、いろいろな数字が確定しました。
- ◎人事院勧告を受け、職員の給与が上がりました。
- ◎その他の主な増額の理由です。
 - 役場屋根まわりの雨どいを直す・・・450万円
 - 公共施設の老朽化に関する調査をする・・・500万円
 - 牛舎を新しく建てるための補助・・・1418万円
 - 雇用を増やす仕事への補助・・・450万円
 - 子育てに関する支援をする・・・150万円

特別会計補正予算

- ◎国民健康保険事業 20万8千円減額
- ◎簡易水道事業 6万8千円増額
- ◎渡船事業 41万円増額
- ◎国民健康保険診療所 347万2千円減額
- ◎下水道事業 2万9千円減額
- ◎介護保険事業 2749万3千円増額

一般質問



(旧野首教会には多くの観光客が)

答 西浩三町長
小値賀町の良さ、魅力は、美しい自然と歴史、人をもてなす町民性だと思います。
本町は西海国立公園にあり、見る人を魅了する美しい景観になっています。太古から人が住み続け、遣唐使の寄港地や捕鯨の基地として栄えた歴史があります。
「日本で最も美しい村連合」に加盟し、国の「重要文化的景観」にも選ば



(王位石を後ろから)

れています。
さらに野崎島はユネスコの世界遺産登録が見込まれています。
町としては、ガイドの育成や体験プログラムの充実、民泊の推進や古民家ステイの魅力化を図り、交通アクセスの改善にも取り組んでいます。
これからも関係者と連携して体験型観光（アイランドツーリズム）を推進し、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを目指します。
ただ観光は、たずさわ



末永一朗議員

問 末永一朗議員

町の基幹産業の農業・漁業には後継者が少なく、高齢化が進んでいる。その中で、将来のまちづくりに、高齢者でもできる観光業を第2の産業として取り入れれば、町の活性化につながると思う。
野崎島や小値賀の文化・歴史を大切に。新しいものはつくりたくない。無理をせず、今のままの姿を生かす。それが小値賀町の観光産業につながると思うが町長はどう考えるか。

今の姿を生かした観光を将来の第2の産業に
これから「住んでよし」「訪れてよし」の
観光地域づくりをめざします

答 西町長

問 末永議員
世界遺産に登録されると観光客は増えると思うが、小値賀本島にプラスになるための施策は。



横山弘藏議員

一般質問



(これ以上保険料が高くなると・・・)

問 横山弘藏議員

国民健康保険に加入している人の高齢化や職業構成の変化などで、保険料収入が低迷し、国保の運営は年々厳しくなってきた。
そんな中、来年度から全国の国保の運営が市町村から各都道府県に移ることが決まっている。
長崎県に移ることで、本町にどのような影響があるか。また、被保険者にとつてのメリット・デメリットは何か町長にうかがう。
答 西浩三町長
県から町に納付額が通知され、町はその額を県に納めることになるが、加入している人の手続は今までと変わりませ



答 西町長

本町の国保の加入者は、町民の4割未満。その人たちのために一般会

問 横山議員
保険料は、今年度から町民一人当たり平均で一万三千円も高くなつた。
今まで、加入者の負担をなるべく軽くするため、国保の基金からお金を充てていたが、基金が減るとそれもできなくなり、保険料がさらに高くなってしまうことも考えられる。
一部の自治体では、加入者の負担を抑えるため、国保の特別会計に一般会計のお金を繰り入れている。町長はこのやり方をどう考えるか。

答 西町長

担当者、課長、首長それぞれレベルで検討、協議を続け、本町の状況も主張しています。
また、医療費を下げるために、特定健診や病気の予防にさらに力を入れていこうと思います。



国民健康保険の運営が県になると保険料は？
今は成り行きを見守っています
病気の予防や健診にも力を入れます

計のお金を充てて良いものか、議論が分かれるところ。他の市町との足並みをそろえることも必要だと考えています。

問 横山議員

本町と都市部との医療サービスの水準に格差がある。本町の加入者の状況や立場を県に伝える仕組み、組織などはしっかりと機能しているか。本町の置かれた立場は弱く、県にしっかりと伝える必要がある。

常任委員会 こんなことをしています

3つある常任委員会は、本会議の時だけでなく、いろいろな活動を日ごろからしています。
この秋は、小値賀が抱えている問題を解決するヒントを求め、先進地や同じような悩みを持つ地域を訪れました。



総務文教厚生

委員会メンバー

右から立石隆教委員、浦英明委員
今田光弘副委員長、**松屋治郎委員長**
末永一朗委員、宮崎良保委員

離島の高校を存続するための秘策に注目 北海道教育庁と奥尻町教育委員会へ



(奥尻高校全景)

高校の存続が危うい
有人国境離島で人口約二千八百人の北海道奥尻町。生徒数の減少で、高校の存続が将来的に危ぶまれます。

町は、人口の流出や過疎化の進行をゆるやかにするために高校はどうしても必要だと考え、では高校を残すためにはどうしたらいいか。
出した答えが、道立の高校を町立に移管することでした。
生徒数が減っても高校はなくさずに済み、島の暮らしに合った独自の授

業で「ふるさと教育」を進めれば、町の担い手の育成にもつながると考えたのです。
道立から町立へ
広い北海道に市町村立の高校は約30校。普通科以外は全道で1学区です。人口が少ない地域の高校は、特色のある学科を設けるなど生徒を集める工夫をしています。
奥尻の高校は普通課ですが、町立に移管してほしいとの要望に対して、道は初めから前向きに対応したそうです。
いろいろな協議は4年近くかかり、町民への説明会も何度も開いたそうです。
そして平成28年4月、晴れて町立奥尻高校となりました。

新たな取り組みも
総合学習では、恵まれた教育資源を生かした「スクーバダイビング」と「奥尻パブリシティ」（小値賀という「遺未来使学」のようなもの）のどちらかを選択します。
今年度からは2つの中学校を統合し、連携型の中高一貫教育もスタートしました。
離島留学制度のほか、町と島民を挙げてのさまざまな取り組みが行なわれ、それらが町民の誇りになり、町の活性化にもつながっているとのことでした。



(高校がずっと残るように・・・)

一般質問



松屋治郎議員



(春の楽しみ合同遠足)

地方創生実現のための人材の育成と確保は？ すべての職種での奨学金の検討を続けます 地域の力を生かし活動のリーダーを育てます

問 松屋治郎議員
人口減少・少子高齢化が進み、町はいろいろな取り組みをしているがなかなか実を結ばず、仕事はあるのに人材を確保するのが厳しい状況だ。
町長は今年度の所信表明の中で、すべての職種の後継者に対し、給付型の奨学金制度の検討をするとしたが、その内容及び結果をうかがう。

答 西浩三町長
町の職員も人材が足りていないのが現実です。島外から人を呼び込むために今までは空き家の整備を進めるなどのハード面の整備をしてきました。
これからは有人国境離島新法などを活用し、地域商社の設立など、ソフト

ト面での整備も必要だと考えています。
奨学金制度については、既にある制度との調整や対象となる人の範囲も考えながら、町に帰ってくる志のある人に対し、実現させたいと思っています。



(若者が意見をどんどん出して)

問 松屋議員
本町の小中学生の学力は県内でもトップレベルだ。この子どもたちを次

世代の小値賀を託すことができる人材に育てることが重要課題だ。
たとえば長崎県立大学では、小値賀などの離島でフィールドワークを行い、島の実情を学ばせるといった、即戦力となる人材育成を行う取り組みをしている。
町づくりの基本は人づくり。人口が少ないほど人を大切にしていきたいが、教育長は人材育成についてどう考えているか。

答 吉元勝信教育長
一人ひとりの夢の実現に向け、また、郷土学習から郷土愛につながるような、いろいろな取り組みをしています。
けれど最近就職より進学する生徒が多く、将



(地域の力を生かして)

来の地域を支える人材の育成に結びついていないのも事実です。
小中高一貫教育が始まって10年。この間の取り組みや成果、課題を現在まとめていますが、これからも小中高一貫教育を軸にしたキャリア教育を続けたいと思います。
卒業して数年後に島に帰ってきてもらえるような仕組み作りも必要だと考えています。
地域の力を生かし、公民館活動などを通してリーダーを育成することも大事だと考えています。

定住・福祉の島として注目されている
島根県の隠岐にある西ノ島町へも

若い移住者が多い

地域おこし協力隊として、水産業支援員、工芸職人、観光支援員、しまシェフ、保育士などの若者を募集しています。まき網船団への就業者も増えています。

その人に向く仕事につけるよう、ていねいなマッチングをしていることが、就業につながっているのではないかとのことでした。



(話の中にヒントが)

いるようです。

高齢者は医療費がかかり町の負担が大きくなるからと反対する人も初めのころはいたそうです。

町営住宅がなければ移住者は来ない、と担当者は断言していました。

住宅がなければ
民間のアパートはなく、町がいろいろなタイプの住宅を毎年必ず建設しています。その数は現在約250戸。それでも足りないとのこと。
町営住宅がなければ移住者は来ない、と担当者は断言していました。

小値賀でも

地域おこし協力隊は、その人と仕事のマッチングをていねいにする必要があります。

多くの経験を持つ熟年世代を呼ぶのも地域力向上のために良いかもしれません。

けれど一番はやはり住むところ。移住者向けの町営住宅の建設についても議会で検討していきま

高齢者の移住も

島で健康にいきいき暮らしたいという50歳以上の人を対象にした「シルバールカディアプラン」による移住者も増えているそうです。

都会での経験や趣味、特技を活かしたボランティア活動や文化活動を通して、地域に貢献して

離島留学制度も

「島っこ留学」という親子で移住型の留学制度もあります。

希望者にはまず島に來てもらい、教室で子どもたちと一緒に食事をするそうです。お互いがいろいろ理解でき、そこからがスタートなのだそう

産業建設

委員会メンバー

右から立石隆教委員、浦英明委員

横山弘藏委員長、土川重佳副委員長

末永一朗委員、宮崎良保委員



イノシシ対策と松枯れ被害対策の取り組み 先進地の唐津市と糸島市に現地視察へ

佐賀県唐津市で松林の保全・再生対策について、福岡県糸島市では鳥獣防止対策について、それぞれ視察研修を行いました。

唐津市は協働で取り組み

唐津市には日本の白砂青松百選に選ばれた国有林の「虹の松原」があります。現地の状況をしっかり確認し、再生と保全に対する唐津市の取り組みについて、詳しく説明を受けました。

唐津市では松林の再生・保全のために、「虹の松原再生・保全実行計画」を策定し、国、県企業、ボランティア団体、NPO法人などが協働して取り組んでいます。

特にNPO法人唐津環境防災推進機構 KANNEの活躍は確かなもので、

代表者の藤田氏の説明は、大いに参考になるものでした。

再生・保全に本腰を

本町では今、このままでは島の松林が消滅するのではないかと心配するほど松が枯れています。

唐津市の取り組みを参考に、本町の松林の再生・保全に全力で取り組んでいこうと思います。



(よく整備された松林は気持ち良い)

長崎と東京の広報研修に参加
より良い議会だよりを目指して

広報

委員会メンバー

右から松屋治郎委員、浦英明委員

今田光弘委員長、横山弘藏委員

宮崎良保副委員長



議会だよりの目的は3つ

議会の活動状況を広く住民に情報提供すること。

住民の声をくみ取り、住民と議会の意思疎通を図ること。

議会への関心を高め、住民と議会のかけ橋になること。

読んでいただくために

まずは手に取って読んでいただけるように、親切な紙面作りが求められます。

読みたい内容、切り口、見せ方にも工夫が必要。わかりやすい内容になっているか常に住民目線、住民の立場で考え、住民の声を編集に反映させなくてはいいけません。

決意をひと言

議会だよりの目的（原点）に戻り、皆さまに読まれ、親しまれる議会だよりにすること。そのための努力を今まで以上にしなければいけません。少しずつかもしれませんが、委員の力を合わせ、がんばっていきましょう。



(小値賀の取り組みを話す)

大事なこと

積み重ねたノウハウもあり、広報紙の全国コンクールに上位入賞している小値賀町議会だよりですが、果たしてどれだけ多くの町民が手にし、読んでいるか。読むだけでなく、議会の活動を理解してくれているか。そこが一番重要です。

高齢化がここにも

本町と同じように高齢化が進んでいる糸島市では、有害鳥獣駆除をする人材の確保に苦労しているようです。

確保するために広域連絡協議会を設立しましたが、それでも苦勞しているそうです。次の世代の駆除員を育てる取り組みなど、物的、金銭的に対策を強化する必要がありますとのことでした。

小値賀町でも次の世代の育成が急がれます。今回の視察研修で、糸島市と同じ問題を共有することができ、今後の対策に生かされる研修となりました。

船の乗り降りを楽に

ポーディングブリッジ設置のための補助要望 ～フェリー乗降時のバリアフリー化を～

乗降時もバリアフリーに
博多からフェリー太古
に乗った方はご存じで
しょう。ビルから通路を
経て直接船に乗ることが
できる乗降施設のことを
ポーディングブリッジと
いい、福江港にも有川
港にもこの施設がありま
す。

九州商船の新しいフェ
リーがバリアフリーで建
造されるのに合わせ、本
町でも乗降時のバリアフ
リー整備をしようという
ものです。

財源が
けれど整備にはお金が
かかります。そのお金の
補助をしてほしいと要望
しました。

県もその要望に応えよ
うと動いてくれているよ
うです。

好感触
11月22日に国に要望に
行った際、地元選出の国
會議員の後押しを受け、
総務省の担当者に会いま
した。

好感触で、どうやら計
画の実現に向けて前進し
そうです。

来年度の事業として、
議会で具体的な内容につ
いて審議することができ
ればと期待していること
です。



(バリアフリーが当たり前の時代に)

小値賀町議会は、長崎県町村議長会、離島振興市町村
議會議長会の組織を通して、国と県に対して年に一度、
要望活動を行っています。
今年は、懸案であるポーディングブリッジ設置費用の
補助と光通信環境整備の補助を要望しました。

通信速度を速く

光通信環境整備への助成を ～高速通信化への道が見えるか～

財源の見通しが
議会はこれまで整備の
必要性を主張してきまし
たが、町は財源などの見
通しが立たないことなど
から、先延ばししてきま
した。

ここに至って、ADSLの
終了時期が迫っているこ
ともあり、町も光通信環
境整備のために本腰を入



(時代の流れに・・・)

光通信は
光通信の整備網は、道
路と同じように基本的な
社会基盤として重要な位
置づけになっています。
本町での現在の通信環
境はADSL。最近、特に
夜間は遅くなってきたよ
うな気がしますが、光通
信の通信速度はその千倍
以上速いと言われていま
す。

また、一度にたくさん
の情報を送れるなどのメ
リットがあり、島外との
交流や観光関連産業、産
品販売、医療環境にも大
いに役立つことになるで
しょう。

町長の手腕に期待
長年の懸案ですので議
会としても、どのような
事業内容になり、どのよ
うな予算提案になるのか、注視しています。町
長の早い決断が待たれま
す。

れ始めました。
地元選出の國會議員の
骨折りで総務省も積極的
な姿勢を示していて、町
は、来年度の事業として
予算に計上できるかどう
かを詰めている段階で
す。

九州商船に町民の声を要望

子ども議会での提案が実現の方向へ

小値賀町議会は九州商船に対し、建造予定の新船フェリーの内容について、町民の皆さまのいろ
ろな声をまとめて要望書を提出。それに対する現時点での考え方について回答がありました。

①船体構造の工夫をするなどして所要時間を短めてほしい。

高出力のエンジンは採用するが、航海速力のアップは費用がかかり困難です。

②いす席をたくさん設けてほしい。

横になりたいという声もたくさんある。バリアフリーの部分にはいす席を設けます。

③ドアのあるキッズルームを設けてほしい。

できる範囲で設置する予定です。

④小さな個室を設けてほしい。

授乳等に使えるスペースを設けます。2等指定室として4部屋くらい個室を設ける予定です。

⑤売店を設けてほしい。

人件費もかかることから、自動販売機での対応となります。

⑥船内から外の景色が見えるようにしてほしい。

客室からは見えませんが、景色を楽しめる展望デッキは設置する予定です。

実はこの③は、今年の「子ども議会」で小学校6年生が提案したこと。
子どもたちの声が届き、それが実現されるかもしれません。これからも
もっといろいろな声を聴かせてください。

今年も小値賀小学校の6年生が議会議を傍聴

12月11日、6年生の児童12名と先生が議会議の傍聴をしました。
議会議の雰囲気を感じ、来年1月に予定されて
いる「子ども議会議」での自分たちの提案につな
げるためです。

小値賀中学校の3年生は議場議員に質問を

12月18日、3年生の生徒23名が、いくつかの
グループに分かれ、代表者が議員に質問します。
議会議では普通、町長以下の執行部が答えます
が、今回は議員が答えるという新しい試みです。
中学生がどのような質問をし、議員がどう答
えるか。議会議だよりの次号をお楽しみに。
(この号の記事は、12月15日に締め切っています。)

北松西高校の3年生は卒業レポートを発表へ

12月21日、北松西高校の3年生13名が3班に
分かれ、卒業レポートを発表します。
その後、議員から質問があれば、それに答え
ます。
高校の生徒42名全員と教職員も参加予定で、
卒業を間近に控え、きっと良い経験になること
と思います。
こちらでも次号で報告する予定です。

全国から小値賀町議会を視察に

小値賀町議会が積極的に取り組んでいる議会改革。

その取り組みを詳しく知ろうと、たくさんの議会が視察に来ています。

能動的に行動する議会 町民とともに歩む議会 政策を提案する議会

この3本柱常に意識しながら、これからも議会改革を進めます。



(岐阜県富加町は人口約 5600 人の町)



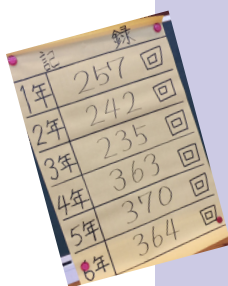
(長野県茅野市から。小値賀で2泊)

月 日	泊数	視察議会等名称	人数	主な視察内容
10月19日	2泊	長野県茅野市議会	8名	観光による町おこしについて
10月25日	1泊	岡山県笠岡市議会	2名	議会への住民参加について
10月31日	2泊	熊本県美里町議会	5名	議会改革の取り組みについて
11月9日	1泊	岐阜県富加町議会	10名	議会改革について
11月14日	1泊	西彼杵郡正副議長会	6名	議会改革について
11月16日	1泊	長野県生坂村議会	9名	議会改革について

小値賀町議会 Facebook



次回の定例会議は3月7日(水)からの予定です。来年度予算の審議がメイン。一般質問も予定しています。ぜひ傍聴を。



観光客が増えています。でもこれ以上増えたい。まったら、どうなるのでしょうか。小値賀の良さを生かしながら、小さな島だからこそできる受け入れ方を考えましょう。みんなの努力とやる気が町を変えます。

「努力とやる気が」

(表紙の写真)
小値賀小学校の第一回長縄記録会の様子です。

編集後記

心地よかった風も冷たく感じるようになりました。朝夕に眺めている本城岳は、青かった松も茶色になり、そして今は真っ赤に。心がむなしいこの頃です。

一方で、今年は夢のようないことが多数ありました。全国和牛能力共進会への小値賀牛の出品。Vファアレン長崎がJ1昇格。

ノーベル賞の受賞者には長崎県に關係あるICANやカズオ・イングロさん。

受賞の模様がTVで流れ、長崎県人としてとても誇りに思いつつ、我が小値賀もまだまだ頑張る環境にあると思つた今日でもあります。

寒い日々が続きますが、風邪などひかないように注意して下さい。

来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

宮崎良保